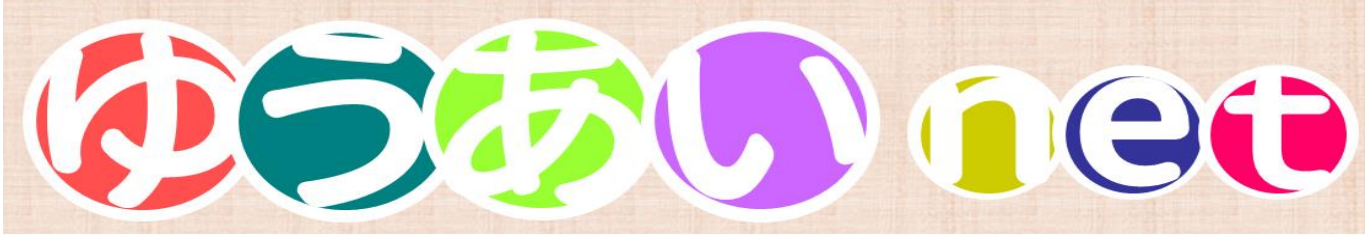


佐賀県の視覚障害教育を結ぶ



この一年間、見えにくさのある児童生徒が在籍する学校、学級、担当されている先生方のお役に立てればと情報等をお伝えしてきました。

来年度も先生方のお声を聞きながら、より役に立つ支援を行いたいと考えています。

一年間、本当にありがとうございました。

年度のはじめに確認しましょう

子どもたちが安心して学校生活を送れるように、次年度に向けて次のことをご確認しておきましょう。

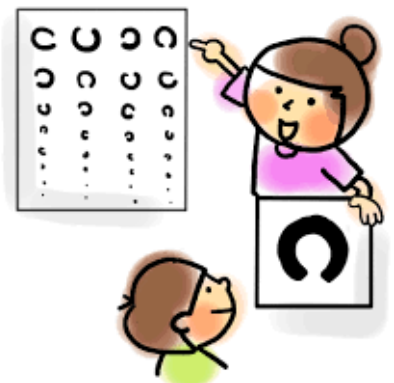
○昨年度までの状況

昨年度までの実態や取り組みの状況等、わかるものがあれば確認をしておきましょう。

校種や学年が変わることにより、有用でないと思われるものもあるかもしれませんが、目を通してみると、役に立つこともあります。特に見え方に関する実態や支援の状況、眼科の受診などについてはきちんと確認しておいてください。

○現在の実態

前年度末から実態が変わらないことがほとんどですが、接する人の違いにより差が生まれることはあります。また、子ども達を取り囲む状況の違いなどで、できなかったことができたり、またその逆もあったりします。視力検査やその他の視機能検査をすみやかに実施し、現在の子どもの状況や状態も改めて確認をしましょう。



○学習環境について

見えにくさのある子ども達には、学習するための環境を整えることが、とても大切です。

・教室の明るさ

一人一人、明るさに対するニーズは違います。明るすぎないか、暗すぎないか、子ども達に聞き取りをするなどして確認してください。

・黒板の見え方

距離はもちろんですが、外光等の反射で見えにくい場所もあります。

・机（右写真参照）

見えにくさのある子ども達は、よく見えるように前屈みの姿勢を取ることが多く、そのため通常の机よりやや高めの机が良いと言われています。

また、読み書きがしやすいように書見台などを用いることもお勧めです。さらに、視覚補助具などを使用する場合は広めの机を用意しましょう。これらのことも子ども達に確認したり、実際の様子を見たりして整えてください。



○教科書、教材について

・教科書は見え方に応じているか

拡大教科書を用いている場合は、そのポイント数（文字の大きさ）を把握しておきましょう。

通常の教科書の場合、文字の大きさだけではなく、図表や写真なども含めて、見えにくさを感じていないか確認しておきましょう。

・教材の配慮はできているか

たとえば拡大教科書では図などを単純化したり、線の太さを変えたりして見えやすくしてあります。授業で用いる教材やプリント類についても文字の大きさはもちろんのこと、同様の手だてを取りましょう。また、地図やグラフなどでは不必要な情報を除いたり、色を配慮したりすることが必要な場合もあります。

これらは、すでに行われていることばかりかもしれませんが、再度確認をお願いします。

子ども達が「必要ない」と言うこともあるかもしれませんが、弱視学級に在籍しているのは「見え方の配慮」を必要としているため、これらの配慮がなければ、学習の保障はできません。

詳細な配慮は一人一人違い、そのためには各種の視機能検査が必要になります。盲学校も一緒に適切な支援について考えていきますので、巡回相談や研修をご活用ください。連絡お待ちしております。

視覚障害教育関係の書籍

先生方から、視覚障害教育関係の本でおすすめは何ですかとよくたずねられます。明日からの実践に参考になるものばかりです。良かったら読んでみてください。



「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援 ～ 通常の学級を担当される先生方のために」

香川邦生、千田耕基、他
教育出版

小中学校の通常の学級に在籍する視力の弱い児童生徒について、その理解と支援をまとめた本です。各教科の学習や日常的な支援についても具体的に書かれているので、まずはこの本から読まれてはどうかと思います。



「視力の弱い子どもの理解と支援」

大川原潔、香川邦生、他
教育出版

上記の本と姉妹本的な関係にあります。内容的に重なるところもありますが、より広い内容が扱われており、合わせて読むことで、日々の具体的な支援について得られるものは多いと思います。



「視覚障害教育入門」

青柳まゆみ, 鳥山由子

ジアース教育新社

やや専門的な内容は含みますが、視覚障害教育について基本的な内容から盲児・弱視児に対する指導、各教科等の指導における配慮事項などが系統的に示されています。



「視覚障害教育 Q&A」

全国盲学校長会

ジアース教育新社

視覚障害児童生徒の理解から視覚障害教育の基礎、教科指導、重複障害への対応、進路指導等を Q&A 方式でまとめた本です。保護者との対応のあり方や福祉制度や関係団体の紹介等、参考になることも多いと思います。



「視覚障害教育に携わる方のために」

香川邦生、他

慶應大学義塾出版会

目の機能の解説や視覚障害の歴史、教育課程や自立活動のあり方、そして各教科の指導や教材教具についてまで、幅広く紹介をされています。視覚障害教育に必要な知識や情報が得られる本だと思います。



「視覚障害児・者の理解と支援」

柴田 裕一

北大路書房

歩行指導を中心に書かれた本ですが、視覚障害の概念やロービジョン、障害理解等についても書かれた本です。インクルーシブ教育についてもふれてあります。



「発達障害の子のビジョン・トレーニング 視覚を鍛えて読み書き・運動上手に!」

北出勝也

講談社

発達障害を持つ児童生徒の中には視覚に困難を抱えているケースもあります。そのため、ビジョントレーニングは有効な手段となり得ます。もちろん、弱視の児童生徒にも有効な場合が多いので、ぜひ取り組んでみてください。



「見えにくい子どもへのサポート Q&A」

氏間和仁

読書工房

弱視の子どもの基本的な知識や特性、支援の方法だけではなく、転入学のことや年度初めに気をつけること、登下校や授業での具体的な支援まで Q&A 方式で説明がされています。編者は視覚障害者の ICT にも造詣が深いので、タブレット端末についての事例などもあげてあります。



「知っておきたい子どもの目のケア」

宮永嘉隆

少年写真新聞社

弱視というより、目の機能からロービジョンまで、『目』に関する全般的な内容が網羅された本です。写真や絵、ふりがななども多用されているので、児童生徒の障害理解などの指導にも資料として使うことができると思います。



「ふしぎだね!? 視覚障害のおともだち」

千田耕基

ミネルヴァ書房

この本も視覚障害全般について、とてもわかりやすく説明された本です。子ども達が読むことを前提に書かれているので、授業などにも使いやすいと思います。



「教室・家庭ですぐできる！発達障害のある子どもの視覚認知トレーニング」

本多和子

学研

発達障害を持ち、視覚認知に困難がある児童生徒から弱視の児童生徒まで、幅広く使える内容の本です。視覚認知の理論的な背景についてもわかりやすく書かれています。またトレーニングのプリントやソフトなども入った CD-ROM がついているので、すぐに取り組むことができます。

視覚障害教育の教科・領域のネットワークづくりをめざして



「視覚障害教育ブックレット」

筑波大学附属視覚特別支援学校 視覚障害教育ブックレット編集委員会

ジアーズ新社

視覚特別支援学校や弱視学級での実践事例や研究レポート、研究会情報などを掲載したブックレットです。各学期ごとに発行されています。編集は筑波大学附属視覚特別支援学校が中心となり行われています。

北出勝也
著



見る力を伸ばして、学力&運動能力アップ！

「クラスで楽しくビジョントレーニング」

北出勝也

図書文化社

視機能についてわかりやすく解説され、個々の児童生徒だけではなく、クラス全体でも取り組める教材や実践例が紹介されています。

「私の見え方紹介カード」

弱視問題研究会



厳密に言えば「本」ではないのですが、自分の視覚の状態をまわりの人に伝えられるようになるためのカードです。「私の視力は?」「私が見える文字サイズは?」など生活や学習場面を想定して、様々な項目が用意されています。



「教師と親のための弱視レンズガイド」

稲本正法・小田孝博他

コレール社

弱視レンズ（単眼鏡など）の使用訓練について、そのプログラムと実施方法について書かれた本です。教科学習における弱視レンズの活用方法についても具体的事例をあげて紹介されています。

佐賀県立盲学校

電話 (0952) 23-4672

FAX (0952) 25-7044

代表メール mougakkou@education.saga.jp

お気軽に御連絡ください。巡回相談の依頼も受け付けています。